

# ビスフェノールAに関する環境省の評価結果発表について

平成 16 年 7 月 27 日  
ビスフェノール安全性 5 社研究会

7 月 27 日に環境省は「平成 16 年度第 1 回内分泌攪乱化学物質問題検討会」においてビスフェノールAの内分泌攪乱作用に関する評価結果を公表しました。当研究会では、今回の発表について皆様に正しく理解していただくために、以下の通り見解をまとめました。

## 記

### 環境省の発表の要旨

#### 1. ラットを用いた 1 世代試験

ヒトが食事等から摂取する可能性がある低濃度領域では明らかな影響は認められなかった。また、既に影響が報告されている非常に高い投与量においてのみ、既知見と同様な一般毒性と考えられる影響が認められた。

#### 2. メダカを用いた魚類への影響

弱いながらも、メダカのエストロゲン受容体への結合性が認められること、オスのメス化を示唆する現象が観察されることから、メダカに対して内分泌攪乱作用を持つことが推察された。しかし、水環境中で観察されているビスフェノールAの濃度は低いことから、実際の環境中でのリスクは低い又はやや低いと考えられた。

### 当研究会の見解

#### 1. ラットの試験結果について

ラットは化学物質の安全性評価に使用される最も標準的な実験動物です。ラットによる内分泌攪乱作用に関する研究は国内外で実施されており、いずれの試験もヒトが摂取する可能性がある低用量の範囲では有害な影響は観察されていません。今回の報告はこれまでの結果を裏付けたこととなります。

#### 2. メダカの試験結果について

昨年、環境省はメダカのパーシャルライフ試験（1 世代約 70 日間）について、おおよそ 400  $\mu\text{g/l}$  以上の濃度でオスのメス化を示唆する影響が観察されたと報告しました。今回はさらに試験期間を長くして（約 180 日間）仔の世代への影響を含めて評価したものです。今回の結果ではおおよそ 200  $\mu\text{g/l}$  以上の濃度で影響があるとなっていますが、昨年の結果を大きく変えるものではありません。

昨年の発表の際に、当研究会では独自に実際の環境中濃度との比較を行い、有害な影響が起こりうる濃度は、環境中で検出される濃度に比べて数百倍高いので、環境中の魚に影響をあたえることは考えにくいと見解を示しました。今回の環境省の発表でも「環境モニタリングの結果から得られた“環境中の推定濃度”は、前回及び今回の試験から得られた“影響がないとされる濃度”よりも 85 ~ 160 倍低く、現実的にはリスクは低い、またはやや低い」とまとめており、当研究会の見解と同様の結論となっています。

#### 3. 当研究会の環境ホルモン問題に対する姿勢

当研究会はビスフェノールAの内分泌かく乱性問題を解明すべく、欧米の工業会と協力して、種々の調査、試験研究を実施しています。

又、（財）製品評価技術基盤機構が進めている河川等への流出源の調査にも積極的に協力しています。

以上

本件に関するお問い合わせ先：

ビスフェノールA安全性 5 社研究会事務局（出光石油化学㈱内）

電話：03-3829-1462 ファックス：03-5819-4564

ホームページ：http://www.bisphenol-a.gr.jp